

令和4年度 家庭教育支援プログラム指導者研修③ 実施報告

実施日：令和4年6月22日（水）

【午前の研修】

○ グループワーク「ファシリテーター演習①」後半

総合教育センター職員、各教育事務所職員

第2回の午後に行った、グループごとに設定された内容と時間で親学習プログラムを実施するための再構成・役割分担を経て、今回は最初のファシリテーター体験を行いました。各グループが研修開始前から集まって進行方法の確認を行うなど、限られた時間で協力し合い、意欲的に体験に向けて準備する様子がありました。

いざ各グループが用意したプログラムが始まると、アイスブレイクで明るい笑い声上がるなどリラックスした様子や、ワークでよりよい子どもとのかかわりについて真剣に考える様子が見られました。家庭教育支援の充実を目指した各グループの気持ちが伝わる実践となりました。



【午後の研修】

○ 説明「思春期版家庭教育支援プログラムについて」

総合教育センター職員

家庭教育支援の場で活用されている思春期版家庭教育支援プログラムについて、作成の背景やその特徴などに関する説明がありました。

プログラムを実施するにあたっての留意点や、地域のファシリテーターがプログラムを進めることの意義、また県立学校における実践の様子や事後アンケートの結果などを聞き、受講者は理解を深めることができました。



○ グループワーク「ファシリテーター演習②」前半

総合教育センター職員、各教育事務所職員

午前中親学習プログラムをファシリテートしたグループごとに、指定された思春期版家庭教育支援プログラムの再構成を行いました。各グループとも、最初のファシリテーター体験を通して得た気づきを生かしつつ、思春期版プログラムのねらいに迫るためにどのようなファシリテートをすればよいかについて、具体的・効率的に検討を進めました。その様子からは、共通の目的に向けて協力し、高め合う「チーム」としての雰囲気が感じられました。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・人前に立ってファシリテートすることの難しさを感じましたが、一緒に進める方がいるので心強く思いました。
- ・実際のプログラムを体験することで、疑問や足りないところが少しずつ見えてきました。ある答えにたどり着くためのものではないことや、参加者に、前向きに参加してもらうための進め方はいろいろであることなどが分かりつつあります。
- ・プログラムを進める際に、進行役以外のサブの役割が重要であることに気づきました。チームで協力することでより学びが深まると思いました。
- ・ファシリテーターは、ワークの目的やゴールを確認することや、参加者の様子をしっかりと観察し、ねらいの達成に向けて話し合いを方向づけていくための柔軟な対応力が必要であることを再確認しました。
- ・演習に特別支援教育の視点を取り入れた実践を行ったが、それが評価されて良かったです。保護者の中にも支援が必要な方は必ずおられるので今後も取り入れていくべきだと感じました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp